

第1回 第3次二宮町男女共同参画プラン策定委員会 議事録

日 時:令和4年7月22日(金) 13:30~14:50

場 所:二宮町役場 第1委員会室

出席者:岡野委員長、夏目委員、小林委員、帰山委員、片岡委員、小野寺委員、吉澤委員、
高見委員(オンライン)、加山委員

町:地域政策課3名

傍聴者(オンライン):なし

1. 開 会

(事務局) ただ今より令和4年度第1回第3次二宮町男女共同参画プラン策定委員会を開催する。本日は傍聴希望者がいない旨、報告させていただく。

2. あいさつ

(委員長) 今年度の第1回目の会議となるが、まず一つ話題として、7月13日に世界経済フォーラムが最新の「ジェンダー・ギャップ指数」、世界中の男女格差を国別に数値化したものを発表した。

日本は146カ国中 116位であり、4つの分野、政治・経済・教育・健康があるが、日本は政治・経済の分野が特に順位が低い。

13年連続トップがアイスランド、2位がフィンランド、3位がノルウェーで、北欧の国々との考え方の違いや、文化の形成もそうだが、日本と根本的に何が違うのかを今一度考えていくことが必要でないかと思う。

私は特に教育の面で、北欧の国々との仕組みや教育の在り方などを考える。日本には家制度があり、男性が大黒柱と呼ばれ、家の中心にいるという文化からスタートしてしまっているが、そういった意識がいまだに根強く残っていると感じる。

しかし、ここへ来てそういった意識を変えていくことや、性別や年齢も全て越えて、様々な人が世の中で自分の立ち位置を見つけて活躍できるような仕組みや世の中を作っていく必要があると思う。

本日から今年度の議題が始まっていくが、今、目の前に起きていることに対して私たちが率直に向き合い、気持ちを切り替えて取り組んでいくことが大事ではないかと常々感じており、そういった意識を持ちながら進めていければと思う。

(事務局) 会議の進行については、設置要綱第6条に基づき、委員長にお願いする。

(委員長) それでは、議題に沿って会議の進行をさせていただく。

まず、議題(1)の「令和4年度策定委員会スケジュールについて」事務局より説

明をお願いする。

3. 議題

(1)「令和4年度策定委員会スケジュール」について

— 事務局説明 —

(委員長) 只今の説明について、何かご意見や質問などあるか。

— 特になし —

今年度のスケジュールについては、この内容で進めていく。

(2)「(仮称)にのみやジェンダー平等プラン 素案」のたたき台」について

— 事務局説明 —

(委員長) 全体を通して何かご意見などはあるか。

話のきっかけになるかどうか分からないが、事業(案)ナンバー18の「女性の職業訓練・キャリアアップに関する情報提供」だが、女性に対して取組があるのであれば、男性にも同じく取組が必要だと思う。

女性が外に出るためのきっかけ作りがあるのであれば、外で働いている男性が家に入る訓練やそういう意識もセットで必要ではないかと感じたが、そのあたりはいかがか。

(事務局) 男性の視点はこの話だと思うが、施策の方向(案)に「女性活躍の推進」を位置付けており、そこにぶらさがる事業(案)として、現在、女性を基本とした事業(案)を考えている。

女性の就業率は、男性と比較すると依然低く、また、パートやアルバイトといった非正規雇用の割合が高いこともあり、女性に着目、女性に特化した事業(案)としている。

男性の視点としては、施策3の施策方向(案)に男性に着目した「男性の家事、育児、介護への参加促進」を位置付けている。

(委員長) 事業(案)ナンバー19の「起業家支援」にもつながると思うが、事業を始めるきっかけ作りとして、例えば、クラウドファンディングのセミナーなど、今時の起業の仕方、新しいやり方についてのセミナーなどを入れるのはどうか。

(事務局) この事業(案)の数値目標(案)は「創業塾受講者数」とリンクしており、第2次プランでも同じ位置付けをしている。

「参考資料」の進捗状況一覧で年度毎の推移を見ていただくと分かるが、目標値である20名に届いておらず、またこの実績数は女性の受講者数のみ

の数字ではなく、全体の人数で、令和3年度の実績人数が6名である。
それらを踏まえ、十分ではないことから、事業概要の中に「時代に合った」や「クラウドファンディング」という言葉を入れることを検討する。

(委員長) 受講者数が少ないということは、そもそものニーズにマッチしていないということも考えられる。

(委員) 女性の就業についての部分で気になったところとして、施策4の「働く場におけるジェンダー平等の促進」の前文に「結婚や出産、育児などに際して就業を中断せざるを得ない女性たちの M 字カーブ問題の解消」の文言部分があるが、最近では、以前よりこの M 字カーブは解消されつつあり、どちらかという
と女性のキャリアの中断の方が問題になってきている。

女性は就業してもパートに切り替わったり、育休を取得したことでキャリアが中断され、同期男性より社内での位置付けが伸びていかないことや、育休取得後の子育てにより残業ができないことから同期男性と積める経験値が異なり、それが実績や能力の差につながりキャリアが中断されてしまうことが言われている。

このプランが今後10年間のプランであること、また、事業(案)に女性のキャリアアップを入れていることを踏まえると、M字カーブだけでなく、女性の就業の中断についての文言を入れていく方がいいのではないかと思う。

(委員) M字カーブが解消されつつあるということは、自分が働いていた時に感じており、社員もパートスタッフも育休を取得し、パートスタッフも育休明けに復帰する、働く場に戻ってくるといった状況はあり、この10年ぐらいでだいぶ進んできたと感じている。

キャリアアップという部分では、中断せざるを得ない状況はあるが、一方で、キャリアアップすることで女性の首を絞めてしまうといったこともあり、ただキャリアアップすればいいというわけではなく、ほどほどに働くことができる環境があることが有り難いといったところもある。

キャリアアップしたい人にとってそれができる道もあり、そのうえで時短勤務や、男性が家庭の中にもっと入ってくることで、男性がもっと参加していくことで、女性のキャリアアップが生活に影響が出ずに実施できていくことにつながると思う。

(委員) ワーク・ライフ・バランスとセットでのキャリアアップだと思う。キャリアアップが長時間労働を前提にしたものであると、女性だけでなく男性自身もつらくなってしまう。

ワーク・ライフ・バランスと合わせて、自分自身の生活を大切にしながら、個人や組織内で働いていく、それがセットでのキャリアアップといえる。

(委員長) キャリアアップしなくてはいけないということだけでなく、いくつか選択肢があればいいのではないかと思う。

キャリアアップの選択をした時に、周りの環境がそれを許してくれるか、許容

してくれるかどうかはその次の課題でもある。全てが連動するようにはないが、セットで考えていくことが必要なのではないだろうか。

(委員) 事業(案)ナンバー11の「男性が参加しやすい講座等を実施」だが、パッとこれを聞いた印象として、「家庭、育児、介護の講座をやります」としたところで、参加する男性はいるのかなと思った。元々関心がある方でないと、なかなか自分から参加しようとはならない。奥さんが言ったところで男性は行ってくれる訳ではないと思う。

視点としては大事な視点だと思うため、否定する訳ではないが、こういった視点を持ちつつ、実際どういった形でやっていけるのかだと思う。

委員になって男女共同参画についていろいろと考えるようになり、自身の夫婦関係などについて考えるようになったが、やはり夫婦間だけでなく、子どもひっくるめた家族としての在り方は大事だと思う。

事業(案)ナンバー3の「学校教育におけるジェンダー平等教育の実施」にあるように、子どもたちが自分たちの学びとしてジェンダーのことについて学ぶこともそうだが、子どもたちを通して家族で話してもらう機会を育てていくことも大事であり、それが男性が参加しやすい講座などにつながっていくのではないか。

この事業(案)がここだけで切り離されるより、他の部分と上手くリンクをしながら、子どもにかかる負担が少し大きくなるかもしれないが、教科としてジェンダーを学ぶということではなく、子どもを巻き込んで、家族全体でジェンダーの話をする、そういった方向が上手くいくのではないかと思う。

(委員長) 面白い視点だと思う。ジェンダーについて学ぶ講座そのものというより、例えば、「男性の〇〇クッキング」など、そういう場を直接作った方が、間接的かもしれないがつながっていくのではないだろうか。

また、育児でいうと、乳幼児のおむつ替えやお風呂に入れるシーンがあると思うが、例えば、そういったシーンを体験できる、バーチャル〇〇など、そういった場面に触れる機会を作る、そういうことでもいいのかなと思う。

(委員) 子どもは巣立ち、孫がいるが、主人は孫が生まれた時にお風呂に入れたり、関わっていた。そういった映像やシーンに触れる機会がよりあると男性も育児に協力しやすくなり、いいのではないかと思う。

皆さんの話を聞いていると、自身がこれまで少し浅く考えていたと反省しているところである。

(委員長) 今までの時代を支えてくださった先輩方がいて、今の私たちがいる。男性女性といった性別に関わらず、意識を変えるきっかけが作れればと思う。

(委員) 同感である。「男性だ、女性だ」ということではないと思う。

(委員) 施策3の数値目標(案)の「地区長の女性割合」だが、他の指標で見れたらいいのではないかと思う。

地区長は社会でいうところの「社長」の人数である。いろいろなところのリー

ダーの数だったり、地区役員だけでなく、様々な団体で活躍している方などが実際多くいる。

そういうところも含めた広い視野での人数、大きい分母で見ていくと、女性のリーダーの割合は増えていくと思うため、そういった視点で指標を広げて見ることがいいのではないかな。

また、いきなりリーダーが出てくる訳ではなく、草の根活動からであり、皆の常識的なところの意識を変えていくことが大切だと思う。

今、コロナであまり活動ができないが、昨年、子ども会でお祭りの役割をどうしていこうかと話をした際に、地区と連絡を取り合う冊子を見たが、様々な分担が書いてあるところに、「役員婦人」という役割があった。「役員婦人」という言葉自体が、役員は男性で、婦人、女性ではないという表現になってしまっている。その冊子自体は昔から使っているものだが、それを見ると心のどこかで「やはり役員は男性がやるものだよね」と思ってしまう人も一定数いると思う。そういった資料や皆が普段目を通すものにも気を配りながら、皆の意識を少しずつ変えていきつつ、地区長だけではなく、地域の様々な活動の場の中でリーダーが育っていくことが分かって今後いいのではないかなと思う。

(委員) 施策9「あらゆる暴力の根絶」の数値目標(案)として、「町のDV相談件数」が新規であるが、その設定には難しい点があると思う。かながわ男女共同参画センターでもDV相談を受けているが、相談件数を目標値に設定するということを行っていない。

施策として「あらゆる暴力の根絶」を掲げているため、減っていく目標値を考えていると思うが、DVは家庭内で起きるものであり、誰かに相談すること自体にハードルがある中、特に最近は殴る蹴るといった身体的暴力ではなく精神的暴力が多く、被害者が黙っていれば表に出てこないといった状況がある。日常的に精神的暴力を受け、もはや、相談する力も残らないぐらいにメンタルがやられてしまうという被害も増えてきており、相談件数自体が増えてくることを決して悪いこととしては捉えていない。そういった現状の中で、相談件数が減少するような目標設定をすることに難しさがあるように思う。

(委員長) 事業(案)ナンバー22の「ジェンダー平等に配慮した防災対策」だが、例えば、避難所に関しては、男女の差だけでなく、年齢差、縦のつながりの視点もセットで必要だと思う。

中学生の役割など、男女平等とセットで世代間交流といった視点も必要ではないかな。教育委員会と一緒に避難所や防災教育をセットで考えていくことがよいのではないかなと思う。

避難所へのペットの避難は大丈夫なのか。

(事務局) 災害時には地域にいる中学生の力、役割が大切だと言われている。地域によっては、中学生が防災などに関わっている。

ペット避難については、昨年度の総合防災訓練時にペット同行避難訓練は予定

されていた。現在、避難所運営マニュアルにペット同行避難の内容を記載するなど進めている。ペット同伴で避難と言っても、同じ場所にとすることは難しい部分があり課題となっている。今年度、地域の避難所運営会議を再開しているため、ペット避難については、避難所ごとに話し合いが進められていくようである。

(委員長) 避難所については、男女、それから支援が必要な方、世代間、ペットなど様々な視点が必要であるので、ぜひ検討をお願いしたい。
今年度、年間4回の策定委員会を予定してるが、第2回と第3回はどのようなイメージの会議を考えているのか。

(事務局) まずは本日の会議内でのご意見やご指摘をもとに、構成や内容の再検討を行い、また、各課等へ確認依頼を行った上で改めて素案を皆さんにお示しをする。

パブリック・コメント前の第3回会議まで、修正等を繰り返し、パブリック・コメント後の第4回会議は、パブリック・コメントの結果を踏まえた内容を確認するイメージを考えている。

(委員) 数値目標についても、今後示され検討の対象となるのか。

(事務局) 地区長の女性割合もそうだが、まだまだ検討が必要な部分だと考えている。過去においては、地区長の全体会にて次期地区長の推薦を依頼する際に、女性登用についての依頼をしていたことがあるが、行政がなかなか立ち入るのが難しい部分である。先ほど分母についての話もあったが、変えていきたいと思っているところであり、柔軟に検討していきたい。

(委員) 数値目標のところ、平成23年度、平成29年度、令和3年度の実績値が全て空欄となっているが、数値が出ているものなのか。

(事務局) 数字として出ているものもある。

(委員) 参考資料にあるこの実績値がそうなのか。

(事務局) 参考資料の数字は、第2次プランの数値目標の実績値の年度毎の推移となっている。

第2次プランの数値目標の4項目については、アンケート結果の数字となっており、平成30年度以降、町民アンケートを実施していないことから空欄となっていたが、昨年度の令和3年度に次期プラン策定のためにアンケートを実施したため、今回数字が入っている。

次期プランにおいては、空欄にならないよう、他課で毎年町民へ実施するアンケート結果の数字を使用することを考えている。例えば、施策1の数値目標(案)である「ジェンダーの認知度」や施策2の「LGBT(Q)やパートナーシップ宣誓制度の認知度」がそれに該当する。

(委員) 数値目標(案)の過去の数字が見えていないと、現在、目標達成近くの数字になっている項目もあるかもしれないがそれが分からない。現在の実態がこうだから今後改善しようということにつながる。そういう意味では、数値目標

として設定しなくてよい項目もあるかもしれない。実績値の分かっている項目、数字については記載した上で、今後、数値目標についてどうするかを考えた方がよい。

(委員) この会議の目的がジェンダー平等プランを策定する、一番小さい行政単位の町としての策定、施策となるが、一方で町としての優先順位がある。その優先順位には、予算がありそれに基づいた取組となる。

町として優先順位を決めて、それを具体的に検討していくことが大切だと思う。会議の目標がどうあるべきか、他の審議会にも出席しているが、最終的にどうなるのかが分からず各論を議論するのではなく、優先順位を付けて議論するものではないだろうか。

優先順位によって予算はつくものであり、それが具体的な取組となっていく。そういった最終的にどうしていくのかということを考えていくということではないのか。

(事務局) プランの多数ある項目について、それに優先順位をつけていくということは難しいと考えている。

計画ものは全体を網羅しているものであり、今回は、具体的に一步踏み込んで、事業(案)を示させていただいた。この委員会では、委員皆さんから様々なご意見をいただければと考えており、そのご意見を踏まえて最終的に行政が取りまとめて計画を作成する。

優先順位が上位であれば予算がつくだろうという話だが、ジェンダー平等プランの中に項目として位置付けられていることで、予算計上の理由として説明がつき、担当課が予算を確保しやすくなるといった面もある。

(委員) 私たち委員の意見を聞いて、参考にしながらよりよいプランを作成し、町の施策として推進していくと。結果として予算がつき、事業や取り組みがつかるといえるということではないか。

(事務局) そうである。

(委員長) 今のご意見は重要なことだと思う。このプランの中でも優先順位を決めていけないといけないし、町としてみた場合、男女共同参画だけでなく、福祉や教育や防災など、そこでの優先順位もつけていけないといけない。

お金も人力的な部分も限られているため、レベルごとカテゴリーごとに優先順位を決めていく必要がある。

その優先順位を決める根拠にはないが、私たちの熱い思いを伝えていくというのが、こういう場でないかと感じている。

(委員) 優先順位に関連するが、先ほど数値目標の実績値、現状値が見えていないと言ったが、実績値について、県や他市町村の数値と比較して二宮町はどうかを明らかにすることが、町の取組としてこの項目は優先的に必要だといったことにつながっていくのではないか。その比較する数値は出せるものなのか。

- (事務局) 県や他市町村もアンケートをはじめ、年度毎に統計を取っているため、その数値と比較することは可能である。
- (委員) 単純な比較はできないと思うが、プランの介護についての項目が、他の自治体と比較すると二宮町では少ないという比較はできるのではないかと。
介護に関する項目がもう少し充実している方がいいのではないかと。働いている女性の中でも、「子育ての支援は充実しているが、介護はどうなのだろう」と不安を持つ人は多い。プランにおいても子育てに関する項目、にのほぐやファミリーサポートなどの記載と同じように、介護についての項目や支援の充実が広がっていけばと思う。
- (委員長) 世代ごとに見えている景色は違うし、必要な支援は異なっている。だからこそ、様々な世代の意見を集めて集約していくこと、そういった視点が大切である。
- (委員) 現状把握はとても大切なことだと思う。そういった意味では、様々なところに関わってくるが、例えば家事一つにとっても、よく「旦那さんがゴミ捨てをしてくれる」と言うが、その前段階としてゴミを分別して出せる状態にすることが家事にはある。そういったところの理解の差が、意識の差に直結すると思う。
家事が見える化すること、家事にはどういったことがあって、例えば、洗濯物を干すことに付随するものが見える化が必要で、個人的にやってみたいなと思っている。家事もそうだが、介護についてもそうだと思う。実際にその立場にならないと分からないことが多くあり、そこにどういった手を差し伸べればよいのか、見えていないと分からない。どの分野においても現状把握や見える化というのはキーワードとして取り組めていけたらいいと思う。
防災の分野においても、女性の視点もそうだが、障がい児者の視点もそうであり、障がい児のお母さんが、実際何かあったらどうしたらよいか分からないと言っていた。ネットワークの中で情報共有しているとは思いますが、見えていないところもあるため、そういった視点も取り入れてほしいと思う。
学校での性教育についてだが、4年生から身体の変化や生殖のことなど勉強しているが、実態とかけ離れているというか、肌感覚が違っているように感じる。
1年生からプライベートゾーンについての教育は行われているが、性のことに対してタブー感を持った教え方をしているのが気になっている。一昨年、PTAの性教育講座や町内で母親たちが、ママたちへの性教育講座を実施したが、そこと学校との決定的な違いが、タブー感の違いのように思う。
学校では触れてはいけない話題として教えられるものに対して、ママたちの講座はスキンシップの大切さなども含めた性教育で、性教育への切り込みの仕方が異なっており、性教育や性に対するスタンスの取り方が鍵だと思っている。

(委員長) 本日は、様々な視点からのご意見をいただきました。次回以降は、本日のご意見を踏まえ修正された部分を含め、何か気づいた点など、意見交換する形をとらせていただければと思う。

(3)その他

— 事務局説明(県のパンフレット、人権教育研修会、次回会議について) —

(委員長) 人権教育研修会の映画「ぼくが性別『ゼロ』に戻るとき」だが、今みたいにジェンダーやLGBTという言葉がほぼ無かった十数年前の時代に悩み苦しんだ方の物語だと聞いている。機会があればぜひご参加いただければと思う。

4. 閉 会

(事務局) それでは、只今をもって、本日の第1回策定委員会を閉会とさせていただきます。